

発行所(郵便番号100)  
東京都千代田区丸の内2-4-1  
丸の内ビルディング617号室  
社団法人スウェーデン社会研究所  
Tel (3212) 4007・1480  
Fax (3212) 1447  
編集責任者 岡 沢 憲 美  
印刷所 関東図書株式会社  
定価300円(年間購読料四千円)  
1994年8月25日発行  
No.288 第26巻7・8合併号  
(毎月1回25日発行)  
昭和44年12月23日第3種郵便物認可

# スウェーデン社会研究月報

No.288

Bulletin Vol. 26

No.7・8合併号

Japanska Institutet För Svensk Samhällsforskning  
(The Japanese Institute for Social Studies on Sweden)  
Marunouchi - Bldg., No.617 Marunouchi, Chiyoda - ku, Tokyo, Japan.



スンドボーンの風景 (撮影: 岡田いずみ氏)

## 目 次

巻頭 スンドボーンの風景	1
カール・ラーションの二つの祖国 岡田いずみ	2
平成6年度総会開催	3
新刊紹介	3

# カール・ラーションの二つの祖国

—スウェーデンと日本を繋ぐ浮世絵の架け橋—

Carl Larsson and - His artistic origin

会員 浮世絵研究家 岡田 いずみ  
Ms. Izumi Okada

ラーションもやはり日本の浮世絵から影響を受けていた！

東京都庭園美術館での展示会において、その事実を知った私は予想していたこととはいえ興奮を禁じ得ませんでした。ゴッホやモネなど印象派の画家達が浮世絵から多大な影響を受けていたことは周知の事実ですが、スウェーデンのラーションまでもが…。

「きれいなねー」とため息の聞こえる大盛況の会場で、私だけが浮世絵が壁いっぱい飾られたラーション家のパネル写真を食い入るように見つめていました。

スウェーデンに興味があるからこそ、このスウェーデン社会研究所に会員として籍をおかせて頂いている訳ですが、一方で兼ねてから浮世絵の美しさに魅せられ収集・研究し、展示会を開催し多くの人々に日本の宝を知ってもらいたいと微力ながらも活動してきた私にとって、スウェーデンの国民画家であるラーションと浮世絵とが結び付いたことは非常に感慨深く、二度東京都庭園美術館に足を運んだ後更にこの夏スドボンのラーションの家を訪れました。



ラーションの家を背にした筆者

好天に恵まれた七月初旬のある日、滞在していたヒューデイクスヴァル（スウェーデン中東部）にある知人のサマーハウスから車で出かけたのですが、いくつも山を越え、どこまでも続くかのような田園地帯を二時間ばかり走った頃、ダーナラ地方と呼ばれる一帯に入りそして目的地スドボンへ。

静に水をたたえる湖には小さな橋がかかり、日陰では土地の人々の寝そべる姿が見られる非常のどかな風景はまるでおとぎ話のようです。当たりの家々も古き時代のままで「ここにラーションの一家は住んでいたんだな」という気持ちを盛り上げてくれます。そのラーションの家も本島に家として住んでいたところをそのまま開放しているといった感じで、新たに手を加えた後は感じられません。

愛らしい民俗衣装を着た女性がある程度の人数をまとめてツアーガイドとして同行し案内してくれるとの事で、指定された時間までのしばしの間あたりを散策しようと家の裏手に回ったところ、そこにはラーションの絵の世界がそのまま広がっているではありませんか。まさに彼の傑作「ザリガニ捕り」、「魚つりをするリスベス」の景色そのままの…。

程なく私達の順番となり家の中へ。「ここはこの絵の…」というところがそこここであり今にも彼の子供達の声がしてきそうです。そして幾部屋か回ったところでとうとう浮世絵に出会いました。本当に、書斎の壁と天井下のところ狭しと飾られているではありませんか。部屋を浮世絵で飾りたてたことで有名な筆頭はゴッホであり、同時代の二人が出会ったという事実は確認されていませんがその浮世絵への傾倒、コレクションの傾向

が非常に似ているのはどういうことでしょうか。

ラーションの浮世絵もやはりその多くは歌川派の作品でした。歌川派といっても現代の日本人にとっては教科書で正當に評価されていませんでしたので馴染みがないかもしれませんが、浮世絵全盛期の最大派閥でありゴッホの浮世絵コレクションの殆どを占めるなど、所謂ヨーロッパのジャポニズムの主演を演じていたといっても過言ではない存在です。(詳しくは近年国内外の展示会や新聞紙上等で目覚ましい成果を発表している「歌川派門人会」の研究にご注目下さい。)

さて、その浮世絵に囲まれたラーションはやはりゴッホと同じように都会を去り自然の豊かな土地に移住しました。一方のゴッホは孤独となり悲惨な最後を遂げてしまったのですが、素晴らしいことにラーションは彼の大家族と一緒に幸せに包まれました。その幸福感によって彼の作品が私達を惹きつけるのだと思いました。

誰だって幸せになりたい、そのための模索の日々です。今私達はその模索の中でスウェーデンから何か学ぼうとしています。制度や政策もそうでしょう、環境保護運動もそうでしょう。そして今回更に、ラーションの「私の家」すなわち彼が実現し、絵として表現し、見る人に伝えたかった彼の思想と生き方が予想もしなかったお手本となって何か大事なことを教えてもらったような気がします。

ゴッホが最愛の弟テオに宛てた手紙の中で切々と浮世絵・日本に対する熱い思いを綴っていたように、ラーションも、我々日本人の心をゆさぶらずにはおかないこんな言葉を残しています。

——「日本は芸術家としての私の祖国」

この言葉を深く理解するためには、橋渡しとなった歌川派の浮世絵を学んでいくことが近道かも知れません。ゴッホの場合もそうであったように。

## 平成6年度研究所総会 報告

年一回の総会が7月1日(金)東京千代田区霞ヶ関ビル33階、東海倶楽部会議室にて午後3時より開催されました。本年度の議事内容のうち、役員異動の件を紙面をおかりしてご報告致します。

- ・ 常務理事の藤牧新平氏の退任に伴い、新常務理事に山田清志氏が就任され、事務局長を兼任される。
- ・ 退任された常務理事藤牧新平氏は、顧問に就任。
- ・ 監事角田善彦氏が退任され、新監事に、淵上貫之氏が就任される。
- ・ 新所長には、常務理事の竹市知弘氏が就任される。
- ・ 西村光夫氏の逝去にともない空席となった理事長の選任については、会長に一任することが決議された。

## 《 新刊紹介 》

『スウェーデンの政治』 『スウェーデンの経済』 『スウェーデンの社会』

岡沢憲美・奥島孝康編 早稲田大学出版部

この度叢書ワセダ・リブリ・ムンディのシリーズとしての上記の3冊がこの6月に出版されました。ここに紹介させていただきます。

3冊の内容は、デモクラシーの実験室としてのスウェーデンの政治と外交、スウェーデンモデルとよばれる福祉国家の形成と成熟、そして経済不況を背景とした苦悩、国際国家として重要な役割を担い、平和・環境・人権などの問題に関して国際的にもリーダーシップを発揮するスウェーデンの姿をじっくり知ることができる。

激しく揺れ動く現代にあって、スウェーデンが福祉フロンティア国家としての変化と新しい可能性を探究している様子を全体的に把握することができる書籍である。

早稲田大学出版部 169 東京都新宿区戸塚町1-103 電話03-3203-1551/定価は税込

ワセタ・リブリ・ムンディ  
第2期刊行開始!

## スウェーデンの政治

●デモクラシーの実験室

岡沢憲美・奥島孝康編 《開かれた政治》をめざし、大胆な政治的実験を試みるコンセンサス・ポリティクスを解明。定価三〇〇〇円

## スウェーデンの経済

●福祉国家の政治経済学

岡沢憲美・奥島孝康編 北欧の貧しい農業国家から豊かな福祉工業国家へ発展を遂げたスウェーデン・モデルを検証。定価三〇〇〇円

## スウェーデンの社会

●平和・環境・人権の国際国家

岡沢憲美・奥島孝康編 安心して暮せる生活環境。世界に先駆けた高齢化社会の政策を分析しそのメッセージを探る。定価三〇〇〇円

既刊 第一期全9巻好評発売中

ドイツの政治・ドイツの経済・ドイツの社会 定価各二五〇〇円  
フランスの政治・フランスの経済・フランスの社会 定価各二五〇〇円  
アメリカの政治・アメリカの経済・アメリカの社会 定価各三〇〇〇円

## スウェーデンを検証する

岡沢憲美 冒険と改革の国として注目を浴びる「生活大国」の実像を写真・図版を駆使してヴィジュアルに解剖する。定価二〇〇〇円

## スウェーデンは、いま

●フロンティア国家の実像

岡沢憲美 伝記的側面に光をあてたウーロフ・パルメ論を軸に、福祉、地方自治、男女機会均等、生涯教育等を考える。定価一五四五円

## スウェーデンハンドブック

スウェーデン社会研究所編 ユニークな政策を展開する実情を第一線の研究者が紹介する。大幅な訂正を加えた新版。定価二五〇〇円

## 現代行政国家と政策過程

片岡寛光編 規制緩和の要請、経済のポータラレス化などの現実を視野に入れて、高度情報化社会の課題を検討する。定価五〇〇〇円

## イギリス議会政治の形成

●「最初の政党時代」を中心に

松園伸 議会ルールの利用法、政治手続き、政策立案などをめぐる二大政党の対立を描き、政党と議会の関係を探る。定価三五〇〇円

## 鉄道時刻表事始め

●ブラドショオ創刊一五〇周年

小松芳喬 ユブラドショオ時刻表の誕生から廃刊までの経緯を辿り社会変革の推進役を担った鉄道の発展を跡づける。定価四八〇〇円